

e シンキング (ひとづくり広域連合政策情報メルマガ) 第 4 2 号  
2 0 0 8 / 4 / 1 5 発行 (月 1 回発行)

各職員に、転送または配布をお願いします。

## 【 目 次 】

今月のトピックス

「医療メディエーター」

広域連合からのお知らせ

平成 1 9 年度政策課題共同研究報告書

平成 2 0 年度政策研究発表会参加者募集

平成 2 0 年度自主研究グループ募集

政策情報誌「Think - ing」第 9 号

現場レポート

自治大学校 政策課題研究「人とツキノワグマの共生」について

今月のトピックス

・・・医療メディエーター・・・

患者やその家族と医師等の医療関係者の間にトラブルが起きた時、その解決に向け、両者の間に入って対応する「医療メディエーター」が注目されています。

最近の医療現場では、患者と医療関係者との信頼関係が失われ、医療不信というべき状況が加速しているといわれ、特に事故が発生したような場合には、コミュニケーションのすれ違いから紛争が激化してしまうことがみられます。

医療メディエーターは、事故等のトラブルが発生した際に、患者側と医療関係者側の対話を促進することを通して、納得のいく合意と関係再構築を支援する役割を担っており、トラブル解決に向けた理論や聞く技術、ケアする技術などの専門技法の習得と倫理性が要求されています。

しかし、その役割が重視される一方で、院内医療メディエーターの養成は、

医療事故防止事業などを行う財団法人「医療機能評価機構」などのいくつかの組織や機関が実施する講座によってなされており、全国一律の資格試験ではないため、能力を客観的に測る手段がなく、人材の質を確保する仕組みが求められています。

そこで、平成20年3月20日に設立された「日本医療メディエーター協会」では、院内医療メディエーターの専門技法や倫理性などについて基準を設け、養成機関を認定していくシステムを構築していくなど、院内医療メディエーターの普及と信頼性獲得の仕組みの構築に務めていくこととしています。

医療の質と安全を向上させていくためには、患者と医療関係者との間に、良好な信頼関係を築き上げていくことが必要です。事故等が起こった際に、また日常の診療においても、患者と医療者の間を真摯に橋渡ししていくような役割を担う、医療メディエーターの様な存在は、これからの医療現場に求められているのではないのでしょうか。(か)

---

#### 広域連合からのお知らせ

#### 平成19年度政策課題共同研究報告書

当広域連合では、県や市町村が直面している政策課題について、広域連合構成団体(県、市町村)職員等が共同で調査研究を行っています。

平成19年度は、下記2テーマについて研究し、報告書をまとめました。

- ・ワーク・ライフ・バランス推進で活力に満ちた自治体組織へ
- ・これからの地域公共施設の役割・機能について

報告書は、県庁主管課、各市町村研修担当に配布させていただきましたのでご覧ください。また、業務で利用される場合は無償で、それ以外の場合については1冊500円での有償にて提供しております。なお、入手方法につきましては直接お問い合わせいただくか、下記ホームページをご覧ください。

報告書の入手方法については

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/top.htm>

報告書概要版については

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/sum/H19sum.htm>

---

平成20年度政策研究発表会参加者募集!

平成19年度政策課題共同研究、行政課題研究及び自主研究グループによる発表を行う標記発表会を開催しますので、是非とも奮ってご参加ください。

なお、参加希望の方は下のリンク先の様式でお申し込みください。

日時 平成20年5月23日(金) 10:25~16:30

会場 さいたま商工会議所 2階 ホール

(JR浦和駅西口徒歩15分)

内容 (1)平成19年度行政課題研究の研究報告  
(2)自主研究グループによる発表(3チーム)  
(3)平成19年度政策課題共同研究(2テーマ)の成果発表  
(4)基調講演

テーマ:「生活価値を高める成果の地域経営(仮)」

講師:慶応大学総合政策学部准教授 玉村 雅敏 氏

発表会の詳細及び参加申込みは

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/03/H20/H20.htm>

-----  
平成20年度彩の国さいたま人づくり広域連合自主研究グループ募集中

当広域連合では、行政の推進に必要と認められる事項について研究活動を行う、県職員又は市町村職員を主たる構成員とする自主的に結成された研究グループに対して、支援を行っています。今年度は、新たな支援制度として、「貸出用研究図書等リクエスト制度」を設けました。

つきましては、平成20年度の自主研究グループを募集しますので、是非、ご応募ください。

詳細は

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/05/jihatsutop.htm>

-----  
政策情報誌「Think-ing」第9号

特集「今求められる地域活性化策」

eシンキング第41号で紹介しました政策情報誌「Think-ing」第9号が、当広域連合のWebページで見ることができるようになりました。是非、ご一読ください。

今回の特集テーマは、『今求められる地域活性化策』です。東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻の根本祐二教授による寄稿論文や多くの県・市町村職員の論文を掲載しています。

政策情報誌「Think-ing」第9号については

=====  
現場レポート

政策課題研究「人とツキノワグマの共生」について

自治大学校第1部課程第109期 小西 浩之

自治大学校での半年間の研修は、日常業務を離れ、第一線で活躍する豪華な講師陣による、法令や地方行政に関する講義や演習、全国から集まった自治体職員との意見交換、情報交換などにより、最先端の情報や様々な意見、考え方に触れ、刺激を受け、見識も広がり、大変充実したものとなりました。

この自治大学校での研修の中でも、最も時間を費やした重要な研修課目として政策課題研究があります。この研究は、4～5人のメンバーが選定したテーマについて協力しながら約5ヶ月間をかけて調査、研究し、最終的にレポートとしてとりまとめるものです。

私の参加する研究グループは、環境問題を研究テーマとして選択した人が集まり、議論を重ね、標題のテーマを設定しました。

その設定理由は、

- ・平成16年と18年に埼玉県も含め、全国の広い地域でツキノワグマが出没し、死亡事故を含め多くの人身被害が発生し、クマの捕殺も行われ、大きな社会問題となったこと
  - ・これまで研究テーマとして取り上げられておらず、取り組む必要があると思われたこと
  - ・クマの出没・クマによる被害発生の一因として、クマが生息している森林環境の変化があり、「森林環境の変化」については、メンバーそれぞれに問題意識があったこと
  - ・「人とツキノワグマの共生」が、被害の軽減、ツキノワグマの保護、森林環境の保全につながり、検討価値が高いと考えられたこと
- などからです。

実際の研究では、「なぜ、平成16年と18年に飛び抜けてクマの出没及びクマによる被害が多発したのか。」という疑問を解くため、クマの生息状況や生態、生息周辺環境がどうなっているのかなどについて調査・分析しました。

その結果、クマの生息地である奥山における戦後の森林政策の影響、クマの生息地と人里との接点である里山における環境の変化、クマの主食であるブナの凶作の影響などが主な原因として分析できたことから、対応策として、中長期的には、森林整備のあり方や里山の再生施策、短期的には、ブナの豊作凶作の予測をもとにしたクマ出沒警報の発令や予防対策の強化などについて、具体例を示してまとめました。

今回のレポートは、メンバーが持つクマに関する情報や森林政策などの専門分野や得意分野の知識を活かし、それぞれが個性を発揮したことで、チームワークよくまとめることができました。振り返るとこの政策課題研究は、問題に対して現状分析をしっかりと行い対応策を導き出すという、今の自治体職員に求められている政策形成能力を養う上で、非常に効果の高い研修課目であったと感じています。

この政策課題研究を通して学んだことも含め、自治大で得られた知識や他の自治体職員とのつながりを今後の業務に大いに活かしていきたいと思えます。

---

#### ご意見・掲載希望

今月号のeシンキングはいかがでしたか？ご意見・ご感想がありましたら下記担当までお寄せください。また、各コーナーでは皆様からの参加レポートなどの情報提供を随時募集しています。「これは記事になるかな？」というものがあれば、お気軽にご連絡ください。

[ eシンキング / 毎月15日発行 ]

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合 政策管理部（吉野・飯田）

〒331-0804 さいたま市北区土呂町2-24-1

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp>

E-Mail: [jinzai03@hitozukuri.or.jp](mailto:jinzai03@hitozukuri.or.jp)

---